

「

BELIEVE

2020
春号
VOL.72

」

特集 **就任のご挨拶** 大阪赤十字病院 院長 坂井 義治
「外来・入院患者アンケート調査」結果報告



「ひととえ」 mai (エイブルアート・カンパニー所属 <http://www.ableartcom.jp>)

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔** ⑫ 麻酔科・集中治療部主任部長 **内海 潤**

- 食だより／春の旬の食材「たけのこ」
- お薬ミニ知識／そのお薬って本当に必要？
- 『がんサポートチーム』からのお知らせ
- 「かかりつけ医」をもちましよう
- 「新型コロナウイルス感染症」から身を守るために

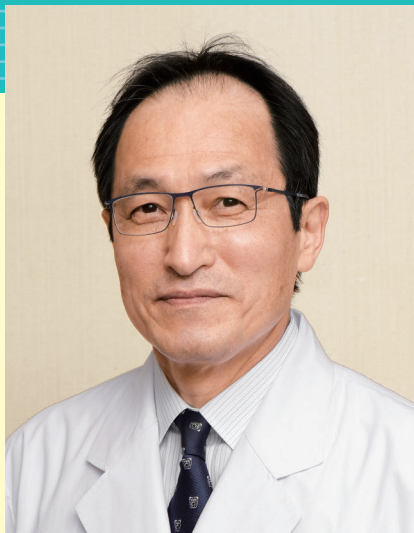
大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります





SAKAI
YOSHIHARU

Profile...

Q 医師を志したきっかけは？

A ブラックジャックを読み、何でもできる外科医に憧れたこと

Q 消化器外科を選んだ理由は？

A 大学卒業後1年でさまざまな科を回り、広範な臓器に触れる科であったから

Q モットーは？

A 日々研鑽

Q 趣味は？

A インナーマッスルトレーニング、ダイビング

学歴

昭和56年 京都大学医学部卒業
平成 3年 京都大学大学院医学研究科博士課程修了
平成 5年 京都大学医学博士取得
「肝切除予後の指標としての肝標本におけるチトクロームc酸化酵素活性の研究」

職歴

昭和56年 京都大学医学部附属病院 研修医
昭和56年 赤穂市民病院 外科医員
昭和59年 兵庫県立尼崎病院（現兵庫県立尼崎総合医療センター）
外科医員
平成元年 カナダ ウェスタンオンタリオ大学 外科臨床フェロー
（オンタリオ州医師免許取得）
平成 3年 社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院
外科医員
平成 7年 京都大学医学部第二外科助手
平成10年 独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 外科医員
平成17年 京都大学医学部消化管外科教授

専門領域

大腸がん、炎症性腸疾患、内視鏡外科手術
日本外科学会 指導医・専門医
日本消化器外科学会 指導医・専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定医
日本内視鏡外科学会 ロボット手術プロクター（直腸）
英国外科学会 終身会員

就任のご挨拶

大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

この度、4月1日付けで大阪赤十字病院院長を拝命しました坂井です。前院長の坂田隆造先生の後継として、微力ではありますが、引き続き皆さまから信頼いただけたる病院づくりに努力する決意です。どうぞよろしくお願ひいたします。

簡単に自己紹介させていただきます。私は広島県生まれで、昭和56年（1981年）に京都大学を卒業後、兵庫県赤穂市民病院、兵庫県立尼崎病院で消化器外科と呼吸器外科を修練し、平成元年（1989年）からは海外で2年間、肝臓移植の修練を積みました。帰国後は京都桂病院、京都医療センター、そして平成17年（2005年）6月から本年3月末まで京都大学医学部附属病院消化管外科に消化器外科医として勤務しました。

この度、百年を越える歴史のある大阪赤十字病院に着任するにあたり、これまで皆さまと赤十字病院職員とで築き上げられた相互の信頼と伝統の重みを感じております。大阪赤十字病院の基本理念であります『わたしたちは、人道・博愛の赤十字精神に基づき、すべての人の尊厳をまもり、心のかような高度の医療をめざします』を心がけ、当院の長所を伸ばすとともに赤十字病院として

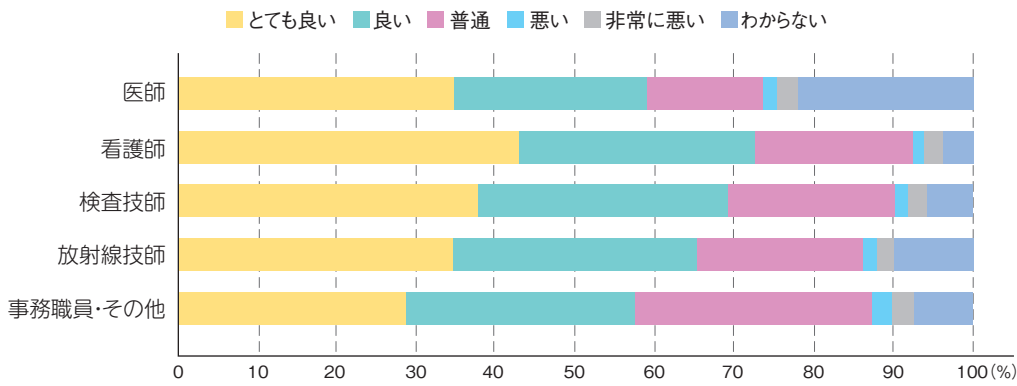
の使命を果たしていきたいと思ひます。

大阪赤十字病院は大阪府内でも屈指の大病院で、高度先進医療機器を備え、各診療科には卓越した専門家を有し、救急をはじめ多様な疾患に対応できる総合病院としての診療体制を築いてきました。その結果、大阪府より地域医療支援病院の認可を受け、地域医療を支える中核病院としての役割が求められています。少子高齢化の社会を迎え、国家予算において医療・介護費の占める割合の高さが議論されているなか、地域の中核病院として適切で効率的な医療を提供するためには、近隣の先生方や医療機関の皆さま、患者の皆さまとの信頼と連携をさらに発展させることが大切だと考えます。より一層のご協力とご支援をいただき、今後も地域に密着した専門性の高い総合病院をめざしたいと思ひます。

大阪赤十字病院の医療に対しては、さまざまなご意見やご批判があるかと思ひます。それらを真摯に受け止め、これからも皆さまに信頼していただける病院となるよう努力する所存です。

「外来・入院患者アンケート調査、結果報告」

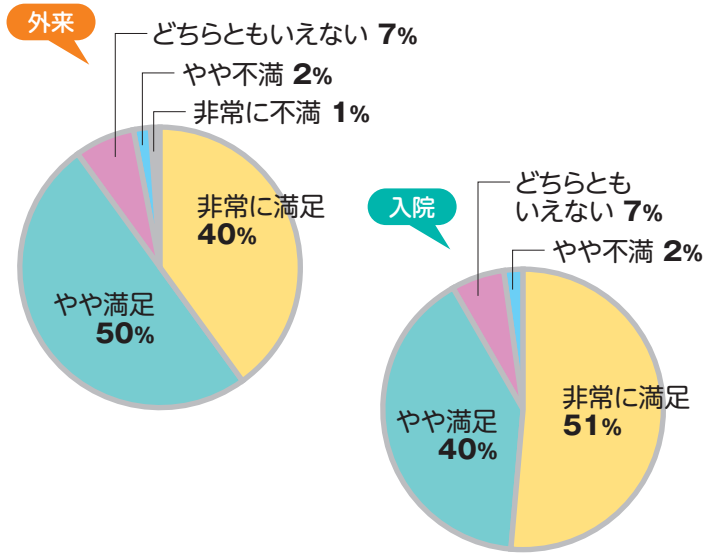
外来 職員の対応はいかがでしたか？



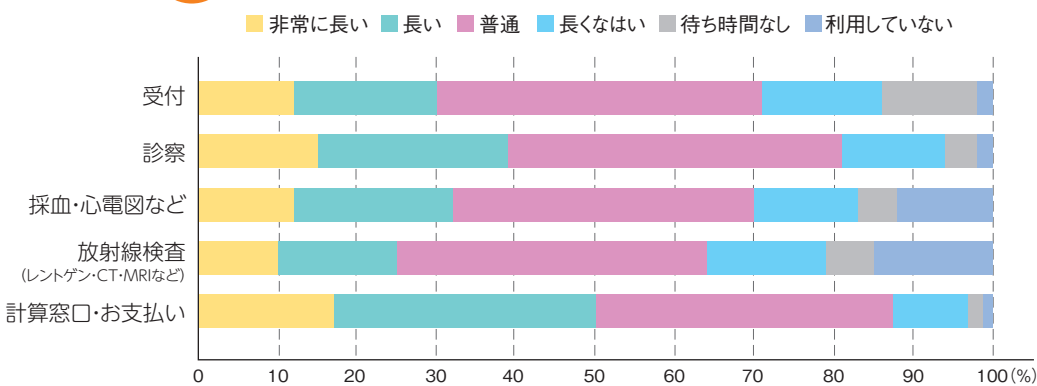
本年も「外来・入院アンケート調査」を行いました。その結果の一部を報告します。いただいたお声をもとに、皆さまのご期待に添えるよう、また「心のかような高度の医療」を提供していただけるよう職員一同引き続き尽力してまいります。アンケートに多くのご協力をいただき誠にありがとうございました。

- ◆ 調査対象／当院通院中および入院中の患者さん
- ◆ 調査期間／外来：令和元年12月16日～12月20日
入院：令和元年12月16日～12月24日
- ◆ 調査方法／外来：本館2階総合ホールでアンケート用紙を配布・回収
記載スペースにアンケート用紙・回収箱を設置
入院：実施期間中に入院中の患者さんへ配布・回収

外来 総合的に見て 当院に満足していますか？



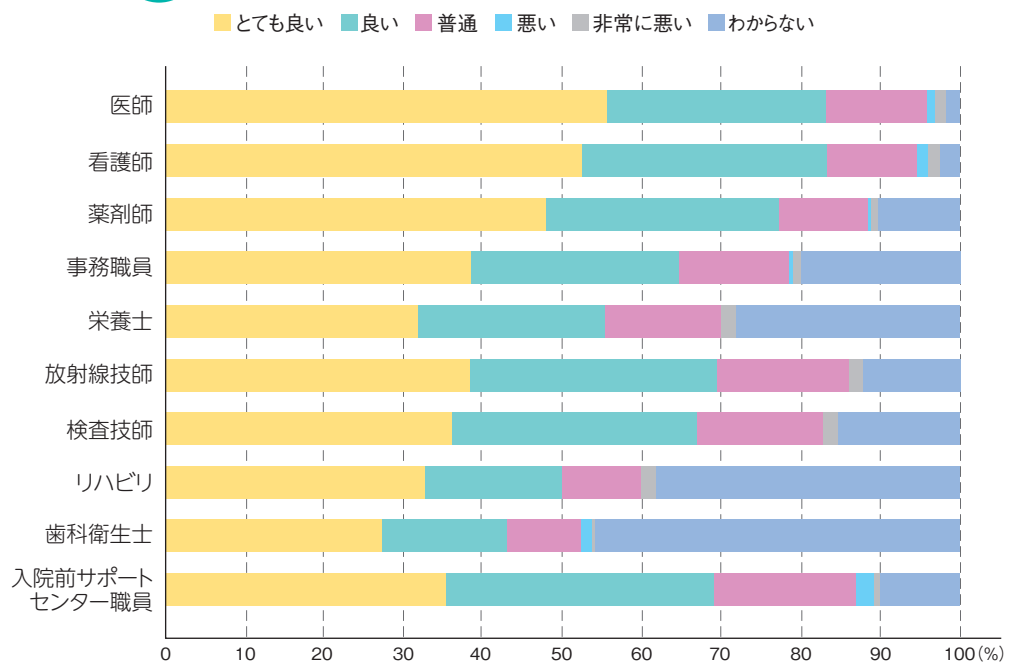
外来 待ち時間はどうでしたか？



患者さんからのご意見

- 「予約コールセンターでの予約変更ができない」
回答 一部投薬や診療内容・検査などの関係で主治医しか変更ができないものがあるため、ご予約の内容によっては予約コールセンターから各科外来へおつなぎする場合があります。ご理解いただきますようお願いいたします。
- 「3階内科の待ち合いで足を組んでいる人がいます。車椅子や他の患者さんが通路を通るのに、無関心で困ります」
- 「大部屋はいろんな人がいるのは仕方ないが、面会の家族にもう少し周りへ配慮するよう言うべきだと思った。においの強い食べ物を持ち込むときはせめてデイルームへ行ってもらいたい」
- 「2階の出入り口付近の禁煙が守られていない。もっと禁煙を呼びかけてほしい。たばこの臭いで気分や体調が悪くなっています」
回答 今回、外来・入院ともにマナーについて多くのご意見を頂戴しました。待ち合いや廊下が狭く、ご不便をおかけしていますが、ご来院の皆さまが快適に過ごせることをめざしています。上記については職員からお声掛けさせていただくこともございますのでご理解をお願いします。また、入院生活、特に大部屋ではお互いに譲り合っていただくことも必要となります。皆さまのご協力をお願いします。

入院 職員の対応はいかがでしたか？



INFORMATION

◆ 文書センター

令和元年5月から文書センターと予約コールセンターを開設していますが、アンケート内で開設をご存じかどうかの質問を設けたところ、6割の方が「知らない」と回答されました。文書センターは『2階総合サービスカウンター⑦番窓口』に設けています。診断書などの医療文書のご依頼からお渡しまでを一元的に行っていますので、ご利用ください（一部各科外来での手続きが必要な文書があります）。

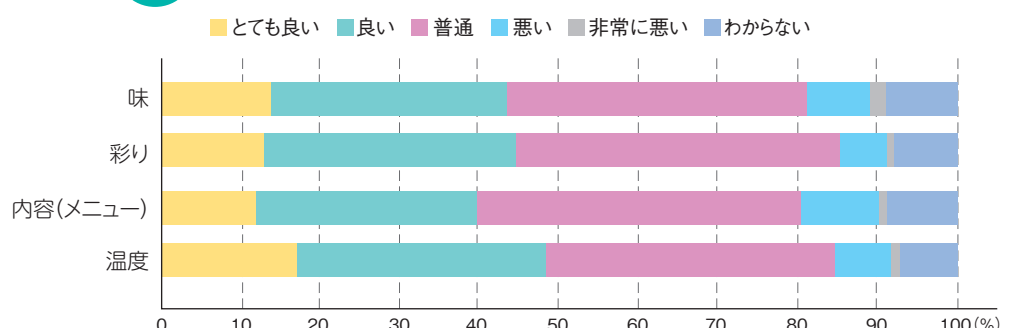
◆ 予約コールセンターについて

ダイヤルイン番号 **06-6774-5129**

● 受付時間 月曜日～金曜日（祝日を除く）8:30～17:00まで

※現在新型コロナウイルス感染症の影響により、お電話が繋がりにくくご迷惑をおかけしていますこととお詫び申し上げます。

入院 食事はいかがでしたか？



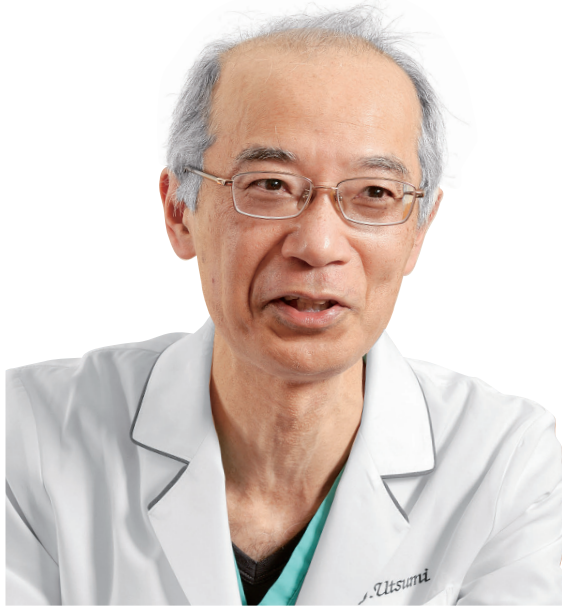
患者さんはもちろん、執刀する先生にも 安心してもらえるよう、バックスとしての役割を果たす

麻酔科・集中治療部主任部長 内海 潤

患者さんと「接する」時間は短くても「見守る」時間は長い

「麻酔科はそれほど患者さんとかかわる機会はないし、顔を覚えてもらっていることも少ない。だから、本当はこの取材も断ろうかと思っていたんです。」笑いながらそう話す麻酔科の内海医師。しかし、実は麻酔科医こそが最も患者さんのそばにいて、言っても過言ではないことを、どれくらいの方が知っているだろうか。

1回の手術に対する麻酔科医の執務時間は長い。まずは手術を受ける患者さんに麻酔を施す。その後、手術中は常に患者さんの様子を観察し、呼吸の管理や、麻酔薬の量を調整する。患者さんの眠りが浅く



ても、深過ぎてはいけない。そして目覚めたときには、あまり痛みが残らないよう、適宜痛み止めの投薬を行う。「手術開始から目覚めるまで10時間かかるものであれば、当然、誰か麻酔科医が10時間ずっとそばにいます。最初と最後まで、合間合間は麻酔を診ていない、なんてことはありません。」そして麻酔科医にはもうひとつ、重要な役割がある。例えば執刀医がこれ以上手術を続行していいか判断に迷う場面。「ベテランの先生ほど難しい手術だったりするので、迷うことがある。その際、『まだ大丈夫』、『一旦終わるべき』などと助言することもあります。」

麻酔科によって意識が消失した患者さんの様子を、終始観察しながらも、適切な医療が行われているか注視する。患者さんの身体を「守る」という使命を、麻酔科医は担っているのだ。

**手術は「チーム医療」
麻酔科の役割は「守備を固める」**

外科医と麻酔科医の役割を、内海医師は「フォワードとバックス」と表現した。「フォワードである外科医がゴールをめざさなければ、点は取れないが、

内海医師作。ドクターヘリへ患者さんを運ぶ、臨場感あふれる1シーン。



そのためにはバックスであるわれわれ麻酔科医がしっかりと「守り」を固める必要がある。患者さんはもちろん、執刀医も安心して手術ができるよう、常に知識をアップデートしています。「使用する薬も毎回、「これが本場に最適な選択か」「もっと安全な方法はないか」、模索するという。」

そんな内海医師の患者さんに対する思いはあたたかい。「当院で手術を受けたらと思うだけで、そのなら、それに応えたい。そして少しでも快適に受けていただきたい。術中はもちろん、術後も安心していただけるよう、術後のケアも拡充しました。」とも話してくれた。

「患者さんにとって一番しんどいときの手助けができれば、それもいい。患者さんに『無事に終わってよかった』、『あまり痛くなかった』と感じてもらえれば、私の顔も名前も、覚えてもらえなくてもいいんです。」そう話す内海医師の穏やかな表情を、忘れることはないだろう。

奈良県生まれ。京都大学医学部卒業後、市立大津市民病院、神戸中央市民病院(現神戸市立医療センター中央市民病院)にて研修。その後京都大学大学院で研究を重ね、国立京都病院(現京都医療センター)で臨床医として活躍。平成11年国立姫路病院(現姫路医療センター)医長に就任。平成20年に当院の麻酔科・集中治療部副部長として着任、平成21年部長に就任、平成31年主任部長に就任した。

看護師レポート 72 MIYUKI NISHI

島根県生まれ。国立療養所松江病院附属看護学校卒業後、松江赤十字病院へ入職。平成19年手術看護分野認定看護師資格を取得。平成22年当院中央手術室へ異動後、平成23年看護係長へ昇任。平成25年～29年にかけて近畿地区認定看護師会 大阪・奈良・和歌山ブロック代表を務めるなど、院外でも幅広く活躍。



●看護係長 西 美幸

一看護師として、そして看護係長として 手術看護の質を高めるために、常に思考を続ける

手術室での看護は日々、さまざまな診療科の患者さんを診ることになります。若いうちは特に、覚えることが多く苦労しますが、できることが増えるたびに、喜びを感じる分野でもあります。手術医療は日進月歩なので、何度担当しても学びを得られるのもやりがいのひとつですね。患者さんとは手術室の短い間しか会わないので、言葉を交わす機会は少ないのですが、術後、院内で患者さんを見かけるたびに「あの患者さん、元気になったんだ」と、うれしくなります。

また、医師に褒められるのも、手術室の看護師にとっては大切です。褒められるということは、手術の進行や、次は何が必要かを理解しては、手術の進行や、次は何が必要かを理解して医師に器具を渡している、ということなので、手術がスムーズに進み、手術侵襲(患者さんが術中受ける影響)なども短くなり、その結果、患者さんの負担軽減にもつながります。20年以上看護師として勤めてきたなかで、手術看護分野認定看護師の資格取得や、近畿地区認定看護師会の大坂・奈良・和歌山ブロック代表着任など、多くのことを経験しました。いずれも、視野を広げたり、手術看護の質を高めたりと、良い学びとなりました。

看護師をめざしたもうひとつのきっかけに、叔母の存在がありました。看護師として活躍する叔母は、看護にひたむきで、常に何かを思考し、その凛とした姿に憧れを抱いていました。立場上、後輩に時に厳しく接しないと、いけないことでもあります。私自身も今後、看護係長として後輩のキャリア形成や、手術室の質の向上をめざしながら、後輩たちにとって働きやすい環境を整えていけたら、と思案しています。



夫は麻酔科の西先生。初詣の日々。叔母さんのために。



食だより

栄養管理課 管理栄養士 福井侑子

春の旬の食材「たけのこ」

竹の芽である「たけのこ」は、春から初夏に向けて旬を迎える食材で、日本では古くから食べられてきました。さて、たけのこを食べるとどんな良いことがあるのでしょうか？

たけのこに含まれる食物繊維は、菌ごたえがあり満腹感が得られるので、過食の予防になります。さらに血糖値上昇の抑制や、コレステロールの吸収を妨げ、体外に排出する働きがあるので生活習慣病の予防も期待できます。また、たけのこに含まれるカリウムには血圧を下げる効果もあるので、高血圧の方におすすめです。

茹でたたけのこに付着している白い物質はチロシンというアミノ酸の一種です。チロシンは新陳代謝を活性化し、ホルモンバランスを整えます。チロシンはドーパミンやノルアドレナリンに変換され、やる気を向上させる効果があります。

地面から顔を出す前に掘られた生のたけのこは、掘り上げた直後は刺身で食べられるほどえぐ味がないものの、時間とともにえぐ味が増します。そのため、生で購入したたけのこは、下茹でをしてあく抜きをします。

から保存する必要があります。下茹でしたたけのこを水につけたまま、水時々入れ替えて冷蔵保存すれば、1週間程度は持ちます。スーパーで売っているたけのこの水煮は、さっと下茹でをすると臭みがとれて、手軽で調理しやすいですね。今回はたけのこを使ったレシピ「たけのこと牛肉のビビンバ風ごはん」を紹介します。

たけのこと牛肉のビビンバ風ごはん

【材料】(2人分)

- たけのこ(水煮).....100g
- 牛肉(小間切れ).....150g
- 青ねぎ.....適量
- ご飯.....300g
- 卵黄.....2個分
- ごま油.....少々
- [A]** 醤油.....小さじ1
- 砂糖.....小さじ1/2
- ごま油.....小さじ1
- にんにく(すりおろし).....少々
- [B]** 醤油.....小さじ1
- 酒.....小さじ1
- ごま油.....小さじ1
- にんにく(すりおろし).....少々
- 豆板醤.....お好みで適量
- すりごま(白).....小さじ1
- 片栗粉.....小さじ1/2

作り方

- 1 たけのこは細切りにし、さっと茹で、水気をきいて【A】を絡める。
- 2 牛肉は適当な大きさに切り、【B】を絡める。
- 3 熱したフライパンにごま油を入れ、②を強火でさっと炒める。
- 4 どんぶりにご飯をよそい、①、③、卵黄をのせ、青ねぎをかける。



お薬ニ知識

薬剤部 薬事衛生課 薬剤師 安富 暉浩



そのお薬って本当に必要？

「お薬の種類が多くて飲むのが大変だ」「種類が多くて、どれがどれだか分からない」「どれをいつ飲むのだけ？」「お薬をもらっているから飲んでいけど、これって本当に必要なの？」。皆さまのなかでも、このような経験をされている人も多くおられるのではないのでしょうか？ そこで今回は、必要最低限のお薬を必要ときに服用するために、『ポリファーマシー』について紹介します。

『ポリファーマシー』という言葉をご存じでしょうか？

『ポリファーマシー』とは「poly(複数)」「pharmacy(調剤)」からなる言葉です。ポリファーマシーには、薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス(患者さんが積極的に治療方針の決定に参加し、その決定を受けること)低下などの問題につながるリスクがあります。つまり、お薬による体調不良、飲み間違い、飲み忘れが増えるということです。

また、薬物有害事象は薬剤数にほぼ比例して増加し、6種類以上が特に薬物有害事象の発生増加に関連したというデータもあります。しかし、ポリファーマシーは単純に複数の医薬品を使用している状態を指す言葉ではありません。たとえ多くの医薬品を使用していても、患者さんの治療や健康管理に必要な場合は、大事な治療であり、ポリファーマシーではありません。

一方で、服用しているお薬の種類が少なくても、お薬同士の相互作用を引き起こす可能性があり、本質的には服用薬の自身が重要になります。そのため、何種類からポリファーマシーとするかといった厳密な定義はありません。

『ポリファーマシー』が生じる状況と解決法

どうしてこのようなポリファーマシーといった状況が生じるのでしょうか？ 例えば、高齢者では病気の治療のためのお薬や症状を緩和するためのお薬の処方が増加し、多剤服用になりやすい傾向があります。ひとつの報告によれば75歳以上の人の約4分の1が7種類以上、4割が5種類以上の薬剤を処方されているともいわれています。また、複数の診療科・医療施設の受診により、処方薬の全体が把握されない場合や同じ効果のお薬をたくさんもらってしまう場合があります。

では、ポリファーマシーにならないための解決方法はどのようなのでしょうか。それは、かかりつけ医やかかりつけ薬局を決めることで、お薬を二元的に管理してもらうことです。ただし、患者さん自身の判断でお薬の服用をやめてしまうことは逆に危険ですので、「このお薬、本当に必要なの?」「お薬の種類が多くて困っている」などがあれば、必要最低限のお薬を必要ときに服用するためにも、ぜひ一度、お近くの薬剤師に相談してみてください。



がん患者さんが療養場所を考えるうえで大切なこと

看護部 がん看護専門看護師 谷口 香織

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp



はとでも大変なことですが、今後について考えることに、早いということはありません。ご自身で考えることができる状況にある今から少しずつ考え、その思いを大切な人に伝えていただきたいと思います。

◆「価値をおくもの」に気づく
療養場所について「病院ではなく、住み慣れた家で家族と過ごしたい」と在宅療養を希望される方もいれば、「病院の方が安心だから、自宅より病院で過ごしたい」と入院を希望さ

◆療養場所について
皆さまは、がんが進行し、今後治療が難しくなった場合、どこでどのように過ごすかを考え、その思いを大切な人と話し合われたことはありますか？ 今後について考え、話し合うことは必要だと感じていても、そのタイミングがいつなのかわからないと思われる方も多いと思います。

◆考える・伝える・タイミング
がんが進行すると身体的症状が現れ、医療行為が必要となるとともに、介助を要することが多くなってきます。このようにさまざまに症状が現れると、患者さんだけでなく、その状況を支えているご家族もつらい思いをされるのではないのでしょうか。そのようななかで、療養場所を考えること

れる方もいらっしゃいます。この決定は、療養場所の意味を患者さんやご家族がどのように捉えるか、何に価値をおくかが影響しており、正解はありません。さまざまなかで悩み、葛藤しながら自分の望むものが何かを見出し決定していくことは、容易なことではありません。しかし、その過程のなかで、人生や生き方において、自分は何に価値をおいているかに気づき、何を選べば良いかが少しずつ見えてきます。

本館2階にある『がん相談支援センター』では、そのような療養場所も含めたがんに関する情報提供を行うとともに、不安や悩みをお聞きして一緒に考え、考えを整理していくためのお手伝いを行っています。対象は患者さんだけでなくご家族も含まれます。がん相談支援センターにお越しただくか、お電話やメールでご相談ください。



がん相談支援センター

がん相談窓口

本館2階 総合サービスカウンター

- ◆電話/06-6774-5152(直通)
- ◆メール/syakaika@osaka-med.jrc.or.jp
- ◆日時/月～金曜 8:30～17:00

まずは、医療ソーシャルワーカーが疑問や悩みごとなど相談内容をお伺いします。内容により、専門看護師や認定看護師が対応する「がん看護相談」のご予約をお取りいたします。

登録医紹介



「かかりつけ医」をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

ツツミ内科循環器科

- ◆院長/塘 義明
- ◆診療科/内科一般、循環器内科
- ◆住所/大阪市天王寺区生玉町2-3 小出ビル2F
- ◆電話/06-6773-0573
- ◆診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前(10:00~13:00)	○	○	○	△	○	○
午後(15:00~18:00)	○	○	検査	△	○	△

※木曜、日曜、祝日は休診
※受付は30分前に終了



塘院長

特長 循環器専門医として高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病や、それらによって引き起こされる狭心症・心筋梗塞などの動脈硬化性疾患、足の血流障害など、専門的な診療を行うとともに、地域の日常的な「かかりつけ医」として、皆さまの総合的な健康管理を行っています。

地域の皆さまへ 「信頼できる医療を患者さまにとって、もっと身近に」という昭和56年から続く前院長からの理念はそのまま、診療を行っています。十分な説明と患者さまとのコミュニケーションを大切に診療をモットーにしています。何か身体に不調などがあれば、気軽にご相談ください。

●症状の緊急度により可能な限り早めの診察を心がけていますが、完全予約制のため、予約なしの方はお待ちいただく場合がございますがご了承ください。初めての方でも予約が可能ですのでお電話ください。

こいえ内科医院

- ◆院長/鯉江 基哉
- ◆診療科/内科、糖尿病内科
- ◆住所/大阪市中央区森ノ宮中央2-1-7 もりのみやキューズモールBASE2F
- ◆電話/06-4790-8177
- ◆往診/有
- ◆診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前(9:00~12:30)	○	○	○	○	○	○
午後(16:00~19:00)	○	○	○	△	○	△

※日曜、祝日は休診



鯉江院長

特長 済生会野江病院糖尿病・内分泌内科副部長を経て2015年に「もりのみやキューズモール」内に開院しました。糖尿病のみならず患者さんの生活まで考慮した診療を心がけています。糖尿病・高血圧・脂質異常症といった生活習慣病を中心に、かかりつけ医としての診療・各種健診・産業医を行っています。

地域の皆さまへ 当院は、地下鉄およびJRの森ノ宮駅近くにあり、モールには駐車場(約400台)もあります。平日19時まで(木曜日以外)、土曜日は12:30まで診療していますので、仕事で忙しい方々にも継続した受診がしやすくなっています。これからも、大阪赤十字病院と同等の糖尿病診療を受けられる医院をめざしていきます。

当院からのお知らせ

「新型コロナウイルス感染症」から身を守るために

新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、4月7日には「緊急事態宣言」が7都道府県で発令されました。今後はますます国民一人ひとりの感染予防への行動変容が求められます。

新型コロナウイルス感染症の特徴とは

(3月末時点)

感染の仕方

一般的には飛沫感染・接触感染で感染します。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させる危険があります。潜伏期間は1〜14日(一般的には約5日)とされています。

解説

飛沫感染

感染した人の飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)と一緒にウイルスが放出され、他の人がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染する。

接触感染

感染した人がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付く。他の人がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染する。

特に、次の3つの条件(3つの密)が同時に重なる場では、集団感染を生じる危険が高いと考えられています。

- 1 密閉空間(換気の悪い密閉空間である)
- 2 密集場所(多くの人が密集している)
- 3 密接場面(互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる)

一般的な症状

発熱や呼吸器症状が1週間前後続くことが多く、強いだるさ(倦怠感)を訴える方が多くなっています。約8割は軽症で経過し、治癒する例が多いことが報告されています。一方で重症度は、季節性インフルエンザと比べて死亡リスクが高く、特に高齢者や基礎疾患のある方は重症化するリスクが高いことが報告されています。

新型コロナウイルス感染症を予防するには

- ◆「緊急事態宣言」では、特に不要不急の外出を自粛し、人と人との接触を減らすことが求められています。
- ◆風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、一人ひとりの咳エチケットや手洗いなどの実施がとて重要です。風邪症状があれば外出を控え、やむを得ず外出する場合にはマスクを着用しましょう。
- ◆集団感染の共通点は、特に「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。そして、部屋をこまめに換気しましょう。



新型コロナウイルス感染症かも…と思ったら

次の症状がある方は、①②を目安に、まずは「新型コロナウイルス相談センター(帰国者・接触者相談センター)」にご相談ください。

- 1 風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている。
(解熱剤を飲み続けなければならないときを含む)
- 2 強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。

※高齢者や基礎疾患などのある方は、風邪の症状や37.5℃以上の発熱が2日程度続く場合、または強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合。

相談センターに相談の結果、新型コロナウイルス感染症の疑いのある場合には、専門の「帰国者・接触者外来」の受診を案内されます。

★医療機関にかかるときの注意

- 相談センターから受診を勧められた医療機関を受診してください。複数の医療機関を受診することはお控えください。
- できるだけ公共交通機関の利用を避けて受診してください。
- 医療機関を受診する際にはマスクを着用するほか、咳エチケット(咳やくしゃみをする際に、ハンカチ・袖を使って口や鼻をおさえる)や手洗いの徹底をお願いします。

News 再来受付機の移設について

令和2年3月2日(月)から、1階の再来受付機を2階に移設しました。以降、再来受付および保険証確認はすべて2階のみとなっていますので、ご協力のほどお願いします。



◀2階再来受付機
(コーヒーショップ前)

News 時間外選定療養費のご負担について

当院の救急外来は、入院を必要とするような重症の患者さんや、緊急の処置・対応が必要な患者さんを最優先に24時間体制で診療しています。しかし、休日・時間外に受診される患者さんのなかには、緊急性の低い軽症の方が少なくないため、重症患者さんの対応に支障をきたしています。つきましては、緊急性が低いと判断した患者さんには以下のとおり、時間外選定療養費をご負担いただくことになりました。当院の救急医療にご理解とご協力をお願いします。

負担金額	5,500円(税込)
対象時間	平日 17:00～翌朝8:30まで
	休日 終日 土曜、日曜、祝日、年末・年始、創立記念日(5月1日)
開始日	令和2年4月1日(水)より

※時間外選定療養費は、厚生労働省から認められている制度です。

次に該当する場合は、ご負担の必要はありません。

- 1) 救急車で搬送された場合
- 2) 他の医療機関からの紹介状をお持ちの場合
- 3) 当院で当日受診し、病状が悪化した場合
- 4) 労働災害、公務災害、交通事故の場合
- 5) 公費負担医療の対象の場合(但し、ひとり親家庭医療は対象外)
- 6) 15歳未満(中学生以下)の場合
- 7) 6カ月以内に当院予約のある場合
- 8) 入院となった場合

編集後記

令和2年4月1日より、坂井義治院長が新院長として就任しました。トップページにご来院の皆さまに向けて、就任のご挨拶を掲載していますので、ぜひご覧ください。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今号には新型コロナウイルスに関する記事も掲載しています。皆さまもどうぞご自愛ください。さて、この春号から「びり〜ぶ」を担当することになりました。皆さまに分かりやすく当院の情報を発信できるよう工夫していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。(H.I)

人事異動情報 (令和2年1月31日～4月1日)

採用 (4月1日付) ●坂井 義治(院長) ●八幡 兼成(腎臓内科部・主任部長) ●古田 昭寛(放射線診断科部・主任部長) ●武信 洋平(脳神経内科部・医長) ●山川 健太郎(脳神経内科部・医長) ●中津 太郎(心臓血管外科部・医長) ●岩出 珠幾(小児外科部・医長) ●奥 聡(麻酔科・集中治療部・医師) ●関口 貴代(麻酔科・集中治療部・医師) ●田口 敦士(耳鼻科・頭頸部外科部・医師) ●水田 弘人(精神神経科部・医師) ●細田 祥勝(眼科部・医師) ●清川 晶(産婦人科部・医師) ●植松 慎矢(呼吸器内科部・医師) ●姜 顯晃(整形外科部・医師) ●楊 涛(脳神経外科部・医師) ●岡本 知子(歯科口腔外科部・歯科医師) ●池田 一俊(脳神経内科部・専攻医) ●伊藤 久尊(放射線診断科部・専攻医) ●岩井 祐人(消化器外科部・専攻医) ●宇都宮 友輔(放射線診断科部・専攻医) ●大倉 良太(放射線診断科部・専攻医) ●大橋 倫子(リウマチ・膠原病内科部・専攻医) ●緒方 康祐(糖尿病・内分泌内科部・専攻医) ●岡本 吉央(血液内科部・専攻医) ●小川 雅子(腎臓内科部・専攻医) ●河原 宏紀(血液内科部・専攻医) ●櫻井 絢(糖尿病・内分泌内科部・専攻医) ●塩見 晃司(脳神経外科部・専攻医) ●角南 志保(皮膚科部・専攻医) ●玉城 駿介(脳神経内科部・専攻医) ●富田 晃生(眼科部・専攻医) ●唐渡 修一郎(消化器内科部・専攻医) ●南條 俊也(消化器内科部・専攻医) ●難波 かほり(小児科部・専攻医) ●新田 彩巴(血液内科部・専攻医) ●白 健人(麻酔科・集中治療部・専攻医) ●東 良亮(腎臓内科部・専攻医) ●平野 昌克(泌尿器科部・専攻医) ●藤原 直樹(呼吸器内科部・専攻医) ●宮里 和佳(呼吸器内科部・専攻医) ●脇田 碧(消化器内科部・専攻医) ●伊藤 聖顕(消化器外科部・専攻医) ●李 悠(消化器外科部・専攻医) ●山田 知佳(血液内科部・専攻医) ●岡林 亜紀(精神神経科部・専攻医) ●伊藤 雅弘(臨床研修医) ●岡田 慎理(臨床研修医) ●梶川 珠未(臨床研修医) ●小林 祐佳(歯科臨床研修医) ●鈴木 努(臨床研修医) ●津田 洋之介(臨床研修医) ●羽賀 すみれ(臨床研修医) ●平田 りさ(臨床研修医) ●三宅 雄大(臨床研修医) ●矢野 翔平(臨床研修医) ●山形 知央(臨床研修医) ●米澤 侑汰(臨床研修医) ●瀧内 悠平(臨床研修医) ●南川 翔(教育研修推進室・常勤嘱託医師) ●大平 純一郎(脳神経内科部・非常勤嘱託医師) ●内田 充(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●西脇 崇裕(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●笹ヶ迫 知紀(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●吉永 貴哉(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●大野 友記子(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託歯科医師) ●濱田 美帆(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師) ●島田 寛生(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師) ●山田 洋介(病理診断科部・非常勤嘱託医師)

転入 (4月1日付) ●市岡 悠(眼科部・医師)

転任 (4月1日付) ●中村 彩加(産婦人科部・医師)

退職 (1月31日付) ●梶原 正俊(消化器外科部・医長) ●宗 万紀子(産婦人科部・専攻医) (3月31日付) ●坂田 隆造(院長) ●伊藤 亨(放射線診断科部・主任部長) ●田中 信三(耳鼻咽喉科・頭頸部外科部・主任部長) ●菅原 照(腎臓内科部・主任部長) ●渡辺 裕介(呼吸器外科部・副部長) ●石井 香利(眼科部・医師) ●福田 亜衣(整形外科部・医師) ●尾藤 博信(整形外科部・医師) ●中村 健治(泌尿器科部・医師) ●大西 満理(放射線診断科部・医師) ●雑賀 玲子(脳神経内科部・医師) ●林 宏昭(小児外科部・医師) ●柴田 洋子(脳神経内科部・医師) ●山田 洋介(脳神経内科部・非常勤嘱託医師) ●北野 正之(耳鼻咽喉科・頭頸部外科部・医師) ●東山 希実(産婦人科部・医師) ●松永 桃子(耳鼻咽喉科・頭頸部外科部・医師) ●赤坂 太(放射線診断科部・医師) ●飯田 悠人(眼科部・医師) ●井上 唯衣(腎臓内科部・医師) ●西 健太(呼吸器内科部・医師) ●楠戸 絵梨子(麻酔科・集中治療部・医師) ●前川 嵩太(脳神経内科部・医師) ●渡辺 昌広(歯科口腔外科部・医師) ●大須賀 拓真(産婦人科部・医師) ●田矢 知大(血液内科部・専攻医) ●救急科部・非常勤嘱託医師) ●中村 洋貴(血液内科部・専攻医) ●奥 雄暉(血液内科部・専攻医) ●山口 優太(血液内科部・専攻医) ●上羽 遥子(糖尿病・内分泌内科部・専攻医) ●中西 梨紗(消化器内科部・専攻医) ●消化器内科部・医師) ●丸一 菜里(循環器内科部・専攻医) ●田村 優(脳神経内科部・専攻医) ●西本 舞(乳腺外科部・専攻医) ●鳥山 拓馬(消化器外科部・専攻医) ●高崎 直(心臓血管外科部・専攻医) ●心臓血管外科部・医師) ●宮本 奈緒美(眼科部・専攻医) ●岸本 尚也(産婦人科部・専攻医) ●産婦人科部・医師) ●大岩 智大(皮膚科部・専攻医) ●服部 悠斗(泌尿器科部・専攻医) ●泌尿器科部・医師) ●天満 祐貴(小児科部・専攻医) ●小児科部・非常勤嘱託医師) ●大木元 達也(呼吸器内科部・専攻医) ●水谷 萌(呼吸器内科部・専攻医) ●大崎 活貴(精神神経科部・専攻医) ●高橋 賢人(精神神経科部・専攻医) ●山元 真也(脳神経外科部・専攻医) ●梅花 優貴(放射線診断科部・専攻医) ●小濱 さゆり(放射線診断科部・専攻医) ●放射線診断科部・医師) ●山本 菜都美(麻酔科・集中治療部・専攻医) ●麻酔科・集中治療部・医師) ●中川 涼太(病理診断科部・専攻医) ●岩田 恵(腎臓内科部・常勤嘱託医師) ●佐藤 聖子(麻酔科・集中治療部・常勤嘱託医師) ●麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師) ●生田 奈央(救急科部・常勤嘱託医師) ●成瀬 瞳(救急科部・常勤嘱託医師) ●岡本 知子(歯科口腔外科部・常勤嘱託歯科医師) ●河野 杏奈(臨床研修医) ●藤川 詩織(臨床研修医) ●前田 未知可(臨床研修医) ●一柳 知宏(臨床研修医) ●三枝 遥(臨床研修医) ●安田 宗一郎(臨床研修医) ●波多野 貴昭(消化器内科部・非常勤嘱託医師) ●南口 早智子(病理診断科部・非常勤嘱託医師) ●堀 貴光(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●小西 義延(救急科部・非常勤嘱託医師) ●家村 宜樹(病理診断科部・非常勤嘱託医師) ●北浦 璃子(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師) ●歯科口腔外科部・常勤嘱託医師) ●山中 利之(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●松田 浩大(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●羽星 辰哉(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●坂戸 勇介(脳神経内科部・非常勤嘱託医師)

病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

**当院は
敷地内全面禁煙です**

当院は、敷地内全面禁煙を
実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 令和2年4月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

